

北日本新聞七月三日十六面の

「一緒に銅版画制作」の記事を読んで

「異年齢交流の大切さ」

芳野中学校 三年 二廉 千怜

私はこの記事を読んで、異年齢の人との交流はとても大切なと思いました。普段、中学生と高校生が一緒に何かをするということはめったにないと思います。しかし、違う環境で生活をしている中学生と高校生の交流は、お互いを高め合える大切な機会だと思います。

この記事は「高校生が中学生から良い刺激を受けている」と書いておりましたが、私は大學生や高校生から良い刺激を受けます。

私は太閤山ラニドの子供未来館で月に一回「バニティトクラブ」に参加しています。

これは、県内の小学校四年生から六年生が集まり、太閤山ラニド内で野外活動をしたり、製作活動をしたりして遊ぶという活動です。ク

ラニアでは小学生以外に、未来館の職員やクラブOBの大学生・高校生・中学生がスタッフと

して参加しています。私は小学生・中学生との活動に参加してきました。小学生のときは楽しく遊んでいただけですか、中学生スタッフになつてからは活動の中で大学生や高校生から多くのことを学びました。

一つ目は、活動のサポートの仕方です。子供達が困ったとき、答えを教え子供達をひくではなく、さりげなくアドバイスしていくではなく、自分で考え、判断して活動を進めていけるように話します。これは大学生スタッフ

からの姿から学び、とても参考になりました。二つ目は、高校生スタッフが「けんかはすぐ止めずに、少し様子を見ることが大切だ」と言つておられました。これは子供達に相手の考え方を理解させたり、子供同士で解決する力をつけさせたりするためだそうです。だから私は、子供達の行動を注意深く見るように気をつけています。

三つ目は、責任をもつて子供達を見守るということを学べました。ケルーフにスタッフ

としてつき、けがをしないで子供達が楽しめるようヒ危险ホイントを事前に知らせたり、体調を気づかたりするなど、責任をもつて行動するようになりました。

このように、大学生や高校生と活動することで相手に分かりやすく伝える話し方や、人との付き合い方などを学び、自分自身の成長にもつながっています。だからこの記事のような交流活動は、今後もいろいろな場所で行ついくべきだと思します。新聞で異年齢交流の取り組みを、どんどん紹介していくほしいです。

北日本新聞七月二九日十八面

## 一緒に銅版画制作

富山第一高校普通科美術コースの生徒による出前講座が28日、魚津市西部中学校であり、高校生と中学生が銅版画制作を通して交流した。

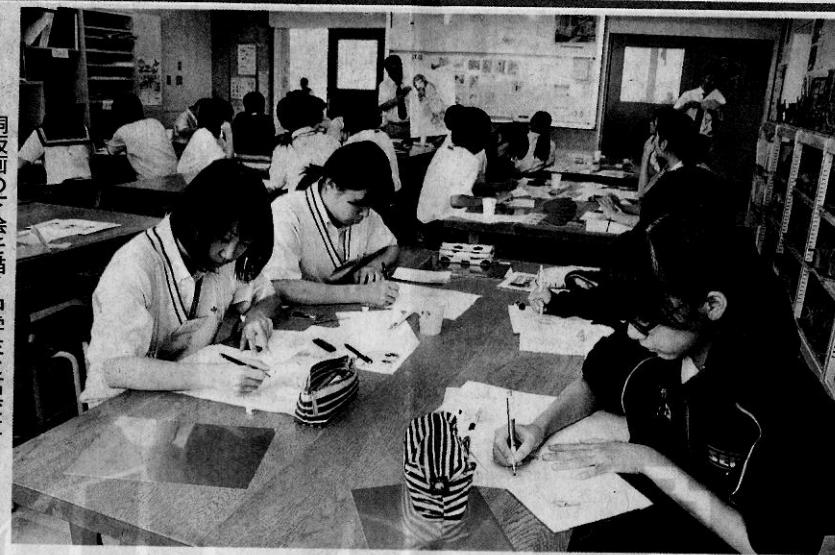
中学生に作品制作の楽しさ

を伝えようと開催。同高の美術系の3年生、美術コースの1、2年生計9人と、同美術部の生徒14人が銅版画に取り組んだ。

中学生と高校生が一緒に机に着き、「心の中の自分」をテーマに1人1点ずつ制作。下絵を銅版に写してニードルと呼ばれる器具で表面を削り、インクを塗って印刷した。

同高の境菜緒さん（3年）

は「中学生はみんな個性豊かに表現していた。中学生と高校生とが互いに刺激し合えるといい」と話した。



銅版画の下絵を描く中学生と高校生

### 富山第一高生 美術コース生 魚津西部中で講座

